

和 暦	西 暦	主 要 事 項
弥生前期	前 三〇〇	遠賀川式土器を伴う八幡の荒古遺跡八幡森地点。
弥生中期	前 一〇〇	弥生前・中・後期にまたがる八幡の南端の細見遺跡。 寺本の谷の弥生集落、野崎遺跡と法海寺遺跡。
弥生後期	二五〇	弥生文化と集落が定着した八幡の獅子懸遺跡。
古墳後期	五〇〇頃	新しく谷頭の湿地などに小規模な水田経営の場を求めた廻間の里脇遺跡、古見の脇島遺跡。 寺本・古見・大野の谷の支配者として岩之脇古墳・棒古墳・寺山古墳を築造（この他知多市内の古墳時代の遺跡として、下内橋遺跡、獅子懸遺跡、八幡森遺跡、野崎遺跡、中島遺跡、森西遺跡がある）。
天智 七	六六八	法海寺（天台宗）平井地区に天智天皇の勅願寺として創建。
	一三世紀	八幡新田の巽が丘古窯址群。
嘉吉 二	一四四二	花井播磨守信忠が大祥院（曹洞宗）を平井地区に創建。
嘉吉 三	一四四三	堀之内津島社、花井信忠建立の棟札を蔵す。創建不詳。
天文二三	一五五四	織田信長、緒川城へ援兵を送り、今川方の村木砦を攻略（二月二四日）し、花井氏の本拠である寺本城の城下に放火し那古野に帰る（二月二五日）（信長公記）。
天正一〇	一五八二	極楽寺（曹洞宗）廻間に再建。

和 暦	西 暦	主 要 事 項
慶長一二	一六〇七	大橋氏、法海寺に十王堂を建立。
慶長一三	一六〇八	備前検地で寺本の土地は、五四五〇石余という村高になったのを機会に、 平井村、中島村、堀之内村、廻間村に分割。
元和 三	一六一七	龍蔵寺（曹洞宗）中島地区に創建。
寛永一六	一六三九	廻間村堀田長右衛門が山廻り役に任命される。
寛文 七	一六六七	通称、亥新田（八幡）の神明杜、土井又助の先代五名により創建。
寛文 九	一六六九	天白社（中島）創立（年月日不詳、寛文九建立の棟札あり）。
延宝七	一六七九	光明寺（曹洞宗）中島地区に創建。
以前	以前	
貞亨 二	一六八五	八幡神社（寺本四カ村）の本殿造営、天明八年造の神輿がある。
元禄 七	一六九四	代官水野権平により寺本御林指定。
元禄一一	一六九八	極楽寺地藏堂に絵天井が奉納される。
正徳 三	一七一三	寺本の鎌ヶ谷に池を築造。
享保一九	一七三四	知多郡寺本付近から横須賀付近にかけて局地的な大雨が降り、付近の農宅地一帯浸水。
寛保 三	一七四三	寺本村の亥新田が開発される。

和 暦	西 暦	主 要 事 項
延享 二	一七四五	寺本村等二九カ村、鳴海宿加助郷村となる。
明和 三	一七六六	平井村の栖光庵で寺子屋開設。
安永 二	一七七三	寺本村、薮村、木田村、横須賀村、大里村、加木屋村の六カ村庄屋は、加人足の軽減を郡奉行に請願。
寛政元頃	一七八九頃	満徳寺（曹洞宗）亥新田に創建。
文政一二	一八二九	寺本村四カ村は、すべての年貢米を御払居にすることを請願。
天保 三	一八三二	寺本新開の干拓実施。
天保 七	一八三六	寺本村の辰新田が開拓。 大風、中島村で八軒の家が倒壊。
天保一二	一八四一	幕府より、日本中に俵約令がでているため、中小根、堀之内村の踊り狂言が禁止。
弘化 元	一八四四	知多西浦へ五万両の調達金を命ぜられる。寺本村は前野小兵治らに借金して差し出す。
嘉永 二	一八四九	寺本村の名古屋行万歳二三〇人程。
嘉永 五	一八五二	寺本の彦左衛門ら三名、船二艘と網一張に手船一艘を加えた船団で揚操網漁法実施。
嘉永 六	一八五三	大旱魃、天王様、法海寺大乘院等で雨乞い。
安政 元	一八五四	画人、神原鳳章斉（寺本）犬山にて没す（十一月二二日）。